

ら い 来ぶらり

図書館へ気軽にぶらりと来館していただきたいという思いで命名しました。

図書館を英語で「Library(ライブラリー)」といいます。

No. 103 4月号

2014年4月1日 発行

たつの市立図書館

龍野図書館 TEL(0791)62-0469

新宮図書館 TEL(0791)75-3332

揖保川図書館 TEL(0791)72-7666

御津図書館 TEL(079)322-1007

<http://www.city.tatsuno.lg.jp/library/index.html>



携帯専用サイトへは、
左のQRコードから
(<https://www.lib015.nexs-service.jp/tatsuno-city/mobile/index.do>)

読書と私 No.95

「わくわくしていたいから」 神岡町 田口 静

本との出会い — 60年余りも前のことですが、父が囲炉裏の灯りに本を翳^{かざ}して色々な話を聞かせてくれました。今にして思えばそれは本の内容ではなく、話好きの父の創作だったのでは…と。でも私にとって「本」とはおもしろく、楽しいことが沢山入っていると感じたひとときであり、確かに私にとって「本」なるものとの出会いだったと回想しています。

給料を貰えるようになると、世界文学全集を買い求め読み、夏目漱石、亀井勝一郎を必死で読んだなあと思い出し本棚を見えています。子どもが絵本に親しむようになると、当時山の麓に在った龍野図書館に通ったものです。勤めを辞め、夫の両親を看取り、60代に入り再び図書館にお世話になるようになると、もう夢中で本を読むようになりました。自分でも不思議なほど楽しくてわくわくするのです。藤沢周平全集を繰り返し読み、山本周五郎に没頭し、言い表すことのできない感動を覚えました。

とにかく図書館に入るのが楽しくて楽しくて…。図書館の司書の方との談笑や、新刊書を紹介連絡してくださったり、新聞やラジオで得た頼りない知識の私の注文に気軽に熱心に応じてくださる心遣いにいつも感謝しています。

本棚の前で同年代の方々とお話することも楽しみです。70代に入って図書館への道を運転しながら、「ああ、いつまでも元気で通うことができたなあ」と祈る思いをしています。楽しみながら一冊でも多く読めますようにと。図書館通いが私の生活の中で“わくわく”の場であり潤いの場である今を大切に、長く続いてほしいと願っています。



昨今、活字離れ云々と取沙汰されていますが、どうしてどうして、中高生は勿論、親子連れで図書館を利用されている姿をよく見ます。また高齢化が加速する中、高齢者の利用も増加するはずですが。今後とも図書館業務のさらなる充実のために、行政の皆様にもより以上のご尽力を頂きますよう市民のひとりとしてお願い申し上げます。

※『読書と私』は図書館の利用者に執筆していただいています。

『地底の科学』 後藤 忠徳 著 ベレ出版



「緊急指令！突然ですがあなたにミッションが与えられました。私たちが暮らすこの地球の中、足元の地面の奥深くに、どうやら地底人が住んでいるらしい、という情報をキャッチしたのです。あなたには『地底人を探し出す』という指令が下されました」という出だしからこの本は始まる。

地下を調べる方法という、まず思いつくのが「穴を掘る」こと。それは間違いではないが、深く掘り続けるにはコストがかかる、掘るにも限度がある、掘ってはいけない場合もある、など様々な理由で簡単に掘るわけにはいかない。では、どうするのか？

医者が音（聴診）や電気（心電図）X線（レントゲン）などを使って間接的に体内の様子を探っていくように、音や電気・電波などを使った「穴を掘らずに地下を見る」という技術で地

下や地底の世界が紹介されていく。地面の下の世界が、いかに地面の上に住むわたしたち人間の暮らしと密接に関わっているかが実感できる。

ファンデーションの原料となる絹雲母（セリサイト）は地下10mの世界の話。毎日飲む水は地下100mまでの話。温泉の話は地下1000mの世界…といった具合におおよその深さで地底を区切って、身近な話題をふりながら、地下の世界をどうやって掘らずに調べるのかが丁寧に書かれている。生活に密着した地下世界から、まだ人間がたどり着いていない深さまで、光の届かない地下を探索し続ける研究者が地底から見えてくる地球の姿を伝える。

南極の厚さ4000mの氷河の下に湖が広がっていたり、未知の微生物が発見されたりと、謎が究明されていく一方、まだまだ未知の世界が残され、知らないものが眠っているかと思わせる地底への興味が尽きない。

（御津図書館 山本）

トピックス

『こどもの読書週間(4/23~5/12) イベント』

1959年（昭和34）に始まった「こどもの読書週間」。図書館、学校、書店等で子ども達への読書意欲を促す行事がたくさん行われてきました。子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにして人生をより深く生きる力を身に付けていく上で読書は欠くことのできないものです。たつの市でも多くの子どもたちに気軽に図書館へ足を運んでもらえるよう、イベントを開催します。

御津図書館 工作教室

絵本カバーでこいのぼり・古新聞で
かぶとをつくってみよう

と き：4月26日(土) 午後2時から
と ころ：御津図書館 2階 研修室
対 象：4歳以上
小学生以下は保護者同伴
定 員：20名 (先着順)
申 込：御津図書館窓口へ（電話可）
☎079-322-1007

揖保川図書館 ファミリーコンサート



と き：4月19日(土) 午後1時30分から
※午後1時20分アクアホールロビー
集合
と ころ：アクアホール1階リハーサル室
対 象：小学生以上(大人可)
定 員：50名(先着順)
内 容：宮崎駿メドレー・アンパンマンマーチ
お話と音楽の調べ「ハベルとグレーテル」
出 演：リベリユール クインテット
申 込：揖保川図書館窓口へ（電話可）
☎0791-72-7666

新宮図書館 一日図書館員

と き：①5月10日(土)
②5月11日(日)
9時30分～17時
定 員：両日とも各2名
(多数の場合は抽選)
対 象：市内在住・在学の小学
5年生～高校3年生
(体験者はご遠慮下さい)
内 容：図書館の仕事体験
申 込：5月2日(金)まで
新宮図書館窓口へ（電話可）
☎0791-75-3332

おすすめする子どもの本・96

『どうながのプレッツェル』

マーガレット・レイ 作 H.A.レイ 絵 わたなべ しげお 訳 福音館書店

ダックスフントのプレッツェルは、生まれてしばらくすると胴体が急に伸びはじめ、世界一どうながのダックスフントになりました。

1歳になったプレッツェルはドッグショーで優勝しました。みんなプレッツェルを見て「ほう！」と感心しました。しかし、小さなダックスフントのグレタは知らん顔です。

プレッツェルはグレタのことが大好きです。「僕と結婚してよ。どんなことでもしてあげるから」とプレッツェルが言うと、「証拠を見せて」とグレタが言いました。そこ

でプレッツェルは、グレタに大きなほねをあげました。しかしグレタは知らん顔。誕生日にもらったボールをあげても、プレッツェルにしかできない芸を披露しても、グレタは「どうながは嫌いな」と言うばかりで、プレッツェルはとてもがっかりしてしまいました。

ある日、ボールで遊んでいたグレタは、ボールを追いかけて穴の中へ落ちてしまいました。怖くてグレタが泣いていると、プレッツェルが「今すぐ助けるぞ！」と走ってきて、長い胴を使ってグレタを助け出しました。プレッツェルがもう一度「結婚してくれるかい？」と聞くと、グレタは「もちろんよ」と答えました。

プレッツェルのグレタへの一途な思いと奮闘ぶりが、色鮮やかな絵で愉快地描かれています。読んであげるなら4歳くらいから。
(龍野図書館 井上)

『寺町三丁目十一番地』 渡辺 茂男 作 福音館書店

昭和10年ごろの寺町三丁目十一番地で写真屋を営む福つつあん一家の物語です。

福地家は、お父さんの福つつあん、奥さんのしげ、男の子6人、女の子3人、助手の曾田さん、お手伝いのおたけさん、合計13人

の大家族です。

ある日のこと、テーブルのかごに、ゆげのたつ焼き芋が山のように入っていました。「ひとり2つずつですよ。」お母さんが言うが早いか勝人の手が芋の山に覆いかぶさるように出ました。すると信人の手がすばやく動き、奪い合いとなってしまいました。

「こらあっ！」お父さんの雷がおちました。2人はえり首をつかまれ、引き離されました。大家族となると食べることはもちろん、お風呂やトイレも競争になります。そしてお父さんは、頑固もので時々子どもの行動

に腹を立て、爆発したりします。

他には、新撰組ごっこ、泥棒侵入事件、朝と夕方の日蓮宗のお勤めボイコット等季節を追って描かれています。

冬のある日、煙突の火の粉が飛び火し、強風にあおられ市の中心部まで火の手があがり、あたり一面が焼け、福地写真館も焼けてしまいました。腕一本で築いた店や子ども達を育てた家の焼け跡を見て、福つつあんは落胆のあまり力がぬけ、ぽたぽたと涙が落ちました。その時、学校にいた子ども達がこちらに向かってかけてきました。

それを見た福つつあんは、「おれには子どもたちがいる。子どもたちの未来がある。やるぞ！ふり出しからやり直した！」そんな希望が湧いてきました。

当時の風物の細かい描写に加え、たくましく生きる大家族の様子が温かく表現されています。10歳くらいから。

(揖保川図書館 石井)



各館の行事予定

※詳細は各館へお問い合わせください。

館名	行事	対象(上段) ・ 時間(下段)	4月の予定
龍野図書館 TEL(0791) 62-0469	●えほんのじかん	0～3歳児、保護者	12日・19日
		第2・第3土曜日(11時～11時20分)	『くだもの』他
	子どもの本を読む会	一般	10日
第2木曜日(10時～11時30分)		総会	
読書会	一般	11日	
	第2金曜日(10時～11時30分)	『恋文』 連城 三紀彦 著	
新宮図書館 TEL(0791) 75-3332	●えほんのじかん	2～4歳児、保護者	28日
		第4月曜日(11時～11時20分)	『わたしのワンピース』他
■おはなしのじかん	5歳児～	5日・12日・26日	
		土曜日(11時～11時30分)	『ふしぎなたいこ』他
揖保川図書館 TEL(0791) 72-7666	●えほんのじかん	3～5歳児、保護者	12日・19日
		第2・第3土曜日(10時30分～10時50分)	『ぐりとぐらのおおそうじ』他
	■おはなしのじかん	小学生以上	12日・19日
第2・第3土曜日(11時～11時30分)		「ミアッカどん」他	
読書会	一般	18日	
	第3金曜日(10時～12時)	年間計画作成	
御津図書館 TEL(079) 322-1007	●えほんのじかん	0歳児～、保護者	13日・20日
		第2・第3日曜日(11時～11時20分)	『どうぶつのかどもたち』他
読書会	一般	8日	
	第2火曜日(13時30分～15時30分)	『下町ロケット』 池井戸 潤 著	